▲優勝決定の瞬間、川﨑は金色の紙吹雪が舞うなかで万感のガッツポーズ!

▶「(3位に終わった)去年と同じ負け方はしたくなかった」と川﨑。一投入魂でひときわ豪快なスプラッシュ音を響かせた

第39回六甲クイーンズオープン

7月7・8日 神戸六甲ボウル

“ONIGIRIパワー”サク裂！ 川﨑由意が今季初・通算5勝目

今季3大会目(レディース新人戦を除く)の女子プロ公式戦「第39回六甲クイーンズオープントーナメント」は、川﨑由意(48期:アイキョーボウル/サンブリッジ)が“ONIGIRIパワー”全開の力感あふれるボウリングで大会初制覇。3位に終わった昨年の雪辱を果たすとともに今季初、昨年12月の「JLBCプリンスカップ」以来の通算5勝目を挙げた。

(主催:株式会社サザンモール六甲)

川﨑は予選(10G)、準決勝(5G)ともに次位と僅差ながらトップ通過。続く決勝ラウンドロビン(8G)では3勝4敗1分けと負け越し、一歩後退の2位でTV決勝に進出した。

その TV決勝のレーンは、進出者全員が異口同音に「変化が早くて難しい」と頭を抱えた難コンディション。それでも川﨑には「勝てるチャンスは逃したくない」との強い思いがあった。

「六甲は去年も2位残りで、3位決定戦で山田(幸)プロに負けた。10フレの⑧⑩をカバーしていれば私が勝っていた試合。同じ負け方はしたくない、という思いでした」

3位決定戦では、4位決定戦の5フレで④⑦⑩スプリットを鮮やかにカバーし、直後の5連発で佐藤まさみを退けるという快勝劇を演じた名和秋を相手にいささかも臆せず、2フレから怒とうの8連発で圧勝。昨年の悪夢?を払拭すると、優勝決定戦も中盤の4連発、10フレパンチアウトを含むノーミス投球で、ストライクは同数ながら3、9フレをスプリットオープンとしたトップシードの大根谷愛に競り勝って“魅せた”。

「ラウンドロビンまでは走って切れるボールを投げていたけど、ステップラダーではピンが飛ばなくなっていたので、ボールを替えて少し内側から投げるようにしたら、それがすごく合った」と川﨑。優勝インタビューでは、第二子懐妊で産休に入り、今回は TV中継(スカイ A)のインタビュアーを務めた山田幸の愛すべき“天然ぶり”をいたずらっぽくイジる余裕もみせ、会場を笑いの渦に包んだ。

「今回はチャンスを逃さず優勝をつかめたのでよかったけど、試合に行って投げてみないと分からないのが私のボウリング。経験上、調子に乗るといいことがないので(笑)、今回は今回。次また気持ちを切り替えて6勝目、7勝目を目指します」

優勝ボール:RADICAL(サンブリッジ)イノベーター・ソリッド

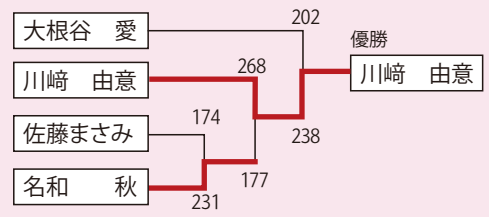
▲TV決勝進出4名中唯一の関西在住プロ・大根谷はトップシードで5年ぶりの優勝に王手をかけたが…。「真っすぐタイトに投げようと思って、9フレで失投(⑥⑦スプリットオープン)してしまったのがダメだった」

▲3位決定戦は⑩ピンタップの連続。「ポケットは分かっていたけど、ピンが飛んでくれなかった」と苦笑した名和だが、予選落ちが続いていた六甲での3位入賞に復調の手応えをつかんだ様子

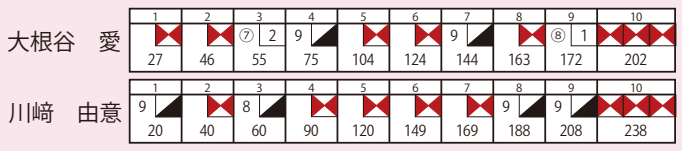
▲「練習ボールの途中からもうすごく(レーンの)変化が起きていて…難しかったですね」と序盤2オープンで4位敗退の佐藤

▲表彰式後のフォトセッション。右はベストアマ(総合41位)の川口茉紀選手(JBC)

●TV決勝ステップラダー



●優勝決定戦



NEWS 新設の女子プロ公式戦「ちゃおちゃおボウリング大会」は賞金総額800万円のビッグトーナメント！

今秋、新たに2つの女子プロ公式戦が誕生する。一つは9月に男女プロアマ選手権を兼ねて山梨県下の4センターで開催予定の「2023山梨レディース」(B公認=次号詳報)、そしてもうひとつは10月6・7の2日間、品川プリンスホテルボウリングセンターで行われる「ちゃおちゃおボウリング大会」だ。

☆

「ちゃおちゃお〜」を主催する株式会社ナミキは、傘下に有する12の関連会社とともに、1都3県(埼玉・千葉・神奈川)で地域に密着した多種多様な住サービス事業を展開する会社だ。グループ全体の社員数は約450名で、福利厚生の一環として野球、ゴルフ、ボウリング、フットサルなどのスポーツ同好会があり、毎年イベントや大会を開催してクライアントやグループ間の親睦を図っているという。

▲「ちゃおちゃおボウリング大会」のポスター。大会の“アイコン”に抜擢されたのは川﨑由意、浅田梨奈の48期生2名だ

ボウリング部は、学生時代にスポーツ万能で鳴らした並木洋一会長の肝いりで2020年秋に発足。そのさい、オリジナルのユニフォーム作りやマイボールのドリルを引き受けたのが、鈴木馨プロ(51期)が代表を務める株式会社 BELLで、今回も鈴木プロが並木会長に公式戦の企画を持ち込み、快諾を得て実現の運びとなった。

賞金総額は800万円(優勝250万円)で、出場枠はプロ100名・アマ20名のビッグトーナメントだ。「数通りのプランを提案したのですが『やる以上は大きな大会を』と会長が決断してくださいました」と鈴木プロ。大会運営はもちろん、株式会社 BELLが手がける。

ちなみに「ちゃおちゃお」の由来はイタリア語の「CIAO」。親しい人へのあいさつの言葉だ。

「社名を冠にした大会名も考えたのですが、不動産業は何かと怖いイメージを持たれがちなので(笑)、お客様に少しでも親近感を持ってもらおうと、弊社の賃貸・店舗名“ちゃおちゃおハウス”から命名しました。言葉の親しみやすさ、可愛らしさが老若男女に愛されるボウリングと、今回出場される女子プロの方々の華やかなイメージにもマッチするかな、と」

そう話す蒲澤亮太社長は並木会長の甥っ子で、就任間もない33歳の青年社長。それまで社長職を兼任していた並木会長から、今大会の旗振り役も引き継いだ。

「ちゃおちゃおハウスは現在、ロゴをはじめとしたブランドイメージの刷新を図っているところ。今大会は弊社の認知度・知名度を上げる絶好の機会と捉えているので、ぜひとも成功させたいと思っています」

▲大会の成功を誓う主催社の蒲澤社長(左)とBELL代表の鈴木プロ(7月13日、都内板橋区成増のナミキ本社にて)